

ドラム映えするドライブ音楽の最良作!

小山太郎

ドラマー

スリリングな官能美をフル搭載

text by jazztoday 編集部



TARO KOYAMA

M&I
JAZZ

詩人・三好達治の有名な〈太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。〉を詩行をもじるならば、〈太郎を奮わせ、太郎の家に音ふりつむ。〉という感じだろうか。「オーディオマニアで、録音マニアで、ジャズファンだった父親」の影響下、小山太郎は小学校5年生でドラムセットの椅子に座るのが日課となった。ドラムクリニックで栃木を訪れた猪俣猛の前で叩いたら、「坊主、俺のところへ来い」と誘われ、中学時代は「東武線を北千住で乗り継いで」神田(当時)の猪俣スクールへ通う。いきなり講師クラスに飛び級し、「高校時代は人に教える立場も」兼任していたとか…。

そもそもなぜドラムを選んだのか、を問えば、「子供ってドラムが好きじゃないですか。あの激しい感じと華やかさが(笑)。野球ならば誰もが投手に憧れる、のと同じ感覚か。まずは師匠の猪俣に憧れ、ジュリー・マンのブラシに魅せられ、3大ヒーローに「ヘインズ、トニー、ディジョネット」の名を挙げる。自身は「クリアでクラシカルな音が好き」と語り、18歳のデビュー時から引く手数多の活躍をみせてきたが、「(渡辺)貞夫さんをはじめ、ドラムに厳しい方ばかりのところまでやってきたので」天性の才能がさらに伸びた。

「辛島(文雄)さんも『ジャズはドラムのための音楽なんだ』とよく仰るし、「ドラムがあってジャズのサウンドが始まる」というコンセプトの先輩が多かった。自身でもそれを見つめ直したかったし、そろそろ自分のサウンドを確立したいという想いもあって」1999年に単身渡米する。

それまではリーダーの顔色を伺うというか、どうすれば飲んでもらえるか、相手の嗜好を模索している側面が否めなかったという。ところが海の向うの本場では「どうやったら好かれるかなんて姿勢では受け入れてくれない。むしろ自分を出せば出すほど飲ばれた」。その風土が、自分のサウンドを確立したいというテーマの解答を教えてくれた。小山は次の課題へとコマを進めた。「ダイナミクス関係上、ピアノトリオからビッグバンドまで叩けるドラマーはほとんどいない」という定説を覆したかった。ピアノトリオからビッグバンドまで叩けるドラマーはほとんどいない」という定説を覆したかった。ピアノトリオからビッグバンドまで叩けるドラマーはほとんどいない」という定説を覆したかった。

「小さい頃からピアノを叩くことに注意を払い、神経がそこに行くことが多かった」小山は大いに燃え、本場の定説さえ覆す存在になった。ドラムのサウンド=ジャズのサウンドという確信、じぶんのサウンド=相手のモチベーションを刺激するという経験則、そして「力まずに大きな音を出すことをもの凄く練習した」末、小山太郎

特有のサウンドが確立し、それを機に帰国した。今回のタイトルも小山の哲学を象徴している。「僕のサウンド=ジャズのサウンドだなという、そんな想いで頑張ろうとNYへ行った。だから、ドラムのほうから見るとジャズジェニックだろうし、ジャズのほうから見ればドラムジェニックなんですよ(笑)」。井上陽介(b)とは渡米前・中・後と続く20年来のつきあい。「太陽コンビとも呼ばれる(笑)」絶妙な関係。「凄く柔軟性がある、足回りが軽くて、それでいてグルーブが深いのは彼を置いて他にいない。ドラマーに好かれるベーシストのナンバーワンだと思う」と評する。

この太陽コンビと意気投合してトリオを結成。小山の初リーダー作『ライト & シェイド』も吹き込んだ田中裕士(p)については、「彼もドラマーの感覚に近く、ハンコックに近いピアニスト。本当は自分が叩きたいというほどの勢いでドラマーライクなアプローチをしてるし、僕のアルバムのミュージカルディレクター的な存在」と語る。

今回の作品は「ピアノトリオでは収まらない僕の部分が出てきて、ここ3~4年はレギュラーカルテットとして参加してもらっている」近藤和彦(as,ss)も合流。「民俗音楽にも興味を持ち、凄く音楽性の幅広いマルチリード奏者」の参入で、ドラムジェニックなアルバムの色彩感が深まった。

1曲目は「中学時代に買ってハマり、ディジョネットの存在に目覚めた憧れの曲」。2曲目は「セナを追い詰めるマンセルのようなバトルの曲が書ければと思って(笑)」書き下ろした、クルマ好き小山の個性が炸裂するブルース。「色気のあるドラム」が堪能できる3曲目や「全編ブラシ」の4曲目…など、多面体太郎の世界が満載だ。

で、もう一人(?)、ジャケットで「共演」したのが大好きなアルファロメオ。渡米前の小山の愛車は4WDだったが、これまた大好きな『ウィ・ウォント・マイルス』をカーステでかけつつ疾走していたら「どうにも4駆には似合わない(笑)」と落ち着かなくなった。「このアルバムにぴったりのクルマを探そう…」と思索し始めた頃、国道沿いのディーラーで異彩を放っていた赤のスパイダーに一目惚れして以来のロメオ派だ。

「アルファロメオの魅力? 官能的だから3~4時間乗っても苦にならない。やはり日本車とはどこか温度が違う部分ですかね。独特の奥行きを感じさせる自身の新作については、「ドラムという楽器ひとつで音楽がどう変化してゆくか、バラエティに富んでわかりやすく“ドラム映え”する作品になっていると思います」と自薦した。



DRUMGENIC 小山太郎

MYCJ-30353 ¥3,000 (税込) 2005/11/16 Release

ドラムスのトップ・ランナー、小山太郎の魅力全開! 現在進行形の「ジャズ最良の形を捉えた渾身のメジャー流通第1作!!

- 01. エルム / 02. テール・トゥー・ノーズ
- 03. フルー・サンズ / 04. オール・ザ・シングス・ユー・アー
- 05. モンスーン・メッセンジャー / 06. アイ・ラブス・ユー・ボギー
- 07. ダブド / 08. ダラナー / 09. テイク・ファイブ
- 10. ザ・リア・ムーン

■パーソネル
 小山太郎 (Drums)
 近藤和彦 (as&ss)
 田中裕士 (Piano)
 井上陽介 (Bass)

小山太郎参加の M&I 作品

HOME SWEET HOME
 I R L I O
 JYORKERS
 望郷
 トリオ・ジェイ・ヨークス
 MYCJ-30243

タッチ・オブ・フォーチュン
 安井さち子
 MYCJ-30319

Back To The Groove
 TOSUKE BOUJE
 バック・トゥ・ザ・グルーブ
 井上陽介
 MYCJ-30343

小山太郎 QUARTET CD 『DRUMGENIC』発売記念ライブ

- 2005年11月30日(水) 六本木サテンドール 問: 03-3401-3080
- 2006年2月18日(金) 群馬県・大間々フィガロ 問: 0277-73-7327
- 2006年2月19日(土) 栃木県・足利市ジャズスポット JAZZ 屋根裏 問: 0284-21-7282